

令和 7 年 3 月

常陸大宮市橋梁長寿命化修繕計画の一部改訂内容について

管理方針に追加 2～3 ページ 追加 赤字が追加文

- 橋梁の点検・診断や修繕を実施するにあたっては、ドローン等のロボットや人工知能（AI）による点検支援技術の活用、修繕における新材料や新工法等の活用に向け、新技術や技術開発の動向を把握し、導入の検討を進め、点検作業の効率化や補修コストの縮減に努める。

点検・診断時には、現場での点検作業では橋梁点検車といったリース費用、特殊作業員の人工等を縮減できる技術の活用、調書・図面作成では点検作業に対する新技術等と併用して調書・図面作成へデータをインポートすることで作業手間を縮減できる技術の活用といった効率的に実施できる新技術を積極的に活用することを基本とするが、現時点では従来の点検費用より新技術を活用した場合の点検費用の方が高価となる状態である。そのため、将来的に新技術の活用実績を積み重ねることで、技術単価の縮減に繋げ今後 10 年程度で総額 100 万円程度の点検費用縮減を目指す。

修繕時には、詳細設計時に各橋梁に適した新技術を検討し実施することで修繕コスト 1%程度の縮減を目指す。

- 橋梁の集約化や撤去を実施するにあたっては、定期点検を行った際、橋梁自体や、橋梁にアクセスする道路を利用している形跡がほとんど無く、今後も利用頻度が極めて低いと判断される橋梁について、集約・撤去の検討を行う。集約化・撤去により 1 回あたりの点検費用約 30 万円が縮減できるものとし、これをコスト縮減効果の数値目標として設定する。今後 10 年程度で管理橋梁の 5% (30 橋程度) の集約化・撤去を目標とし、約 900 万円のコスト縮減効果を目指す。